

平成 27 年度 学校 評価 実施 報告 書

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
総合学科の特色ある教育活動を推進し、生徒が意欲的に学習に取り組む環境を整える。	<p>①総合学科の特色ある教育課程により、生徒のニーズに対応する充実した学習活動を展開する。</p> <p>②原則履修科目「産業社会と人間」やガイダンス機能を活用し、総合学科の設立趣旨に沿った履修指導を組織的・計画的に行う。</p> <p>③学校外の学修への積極的な参加を促進し、自らの進路に対する意識を高めさせる。</p>	<p>①総合学科の魅力や本校の特色を取り入れた教育課程を編成し、授業展開できたか。</p> <p>②生徒の興味・関心や進路希望に沿った履修指導が行えたか。</p> <p>③技能審査、ボランティア活動、就業体験活動等への取組は促進されたか。</p>	<p>①平成 26 年度の検討により整理をした科目編成で授業を展開し、生徒のニーズに対応した。さらに、県立高校改革に向けた新たな総合学科高校づくりの検討を進めた。</p> <p>②選択科目や6系列で編成した系列科目で、生徒の興味・関心や進路希望をふまえた教育課程を編成するとともに、年次団による細やかな履修指導を行った。</p> <p>③校外講座による単位認定数が、昨年度 36 件から今年度は 51 件に増加した。就業体験活動では 29 名を単位認定した(昨年度単位認定 48 名)。就業体験活動参加者の中から選抜した生徒に、文教大学等で開催されたインターシップ発表会で発表させた。技能審査の単位認定数は、166 件(昨年度 92 件・一昨年度 91 件)と大幅に増加した。</p>	<p>①県立高校改革の取組として、県立総合学科高校の系列を、他校と共通した4系列に整えることとした。今後は、基礎学力を保證する教育課程の在り方をさらに追求する。</p> <p>②県立高校改革の方向性に基づき、平成 29 年度に向けて必修科目の考え方を揃えるとともに、4系列の科目構成に系統性を持たせ、普通教科と系列科目との関連づけを明確にする。Semester制の導入に向けた、段階的な科目構成や半期集中の講座等、生徒にとって分かりやすく、進路実現に向けて組み立てやすい履修計画を示す。</p> <p>③校外講座や検定試験による資格取得について、早い時期から生徒に対する情報提供を行い、参加者をさらに増加させるための取組を推進する。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合学科の特徴を生かすためにも教科・科目を「選択する」力を育ててほしい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新入学生に対して入学時にアンケート等を実施し、学校の選択理由やカリキュラム、学校生活への期待等のニーズ調査を行い、学校づくりに活用するとよいのではないかと。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合学科の多様な学びが、生徒に浸透し定着してきている。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立高校改革の新たな方向性をふまえ、総合学科高校の共通カリキュラムや本校独自のSemester制を開発・整備する。
きめ細かい生徒指導・支援により、基本的な生活習慣の確立を図る。	<p>①対話を基盤とする生徒指導により、ルールやマナーなど基本的な生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>②服装頭髪指導や遅刻指導、美化活動など、学校全体で共通理解に基づいた指導を行う。</p> <p>③スクールカウンセラーとの連携を促進し、教育相談体制を有効に機能させ、生徒支援を充実させる。</p>	<p>①あいさつ・服装・頭髪・時間厳守などの基本的な生活習慣が身に付いたか。</p> <p>②校内美化等に対する意識を高め、落ち着いて学習する環境が整備できたか。</p> <p>③組織的に教育相談や生徒支援が行えたか。</p>	<p>①学校として統一した指導方針の下で、頭髪・制服に係る指導を粘り強く行うことで、校則遵守の意識が定着し、生徒は校則に従って学校生活を送っている。</p> <p>②遅刻については、統一した基準により指導した。遅刻指導の対象者は延べ 288 名であるが、年間の遅刻回数は昨年度の 76%となった。</p> <p>③環境美化活動など学習環境整備については、全生徒による通常清掃や年 回の大掃除に加えて、部活動参加者による体育館周辺清掃等を通じて推進した。スクールカウンセラーの拠点校として、カウンセラーと綿密に打ち合わせを行い、課題のある生徒や保護者を対象としたカウンセリングを行った。カウンセラー来校日は常に相談対応の予約が埋まる状況で、延べ 57 件(生徒保護者 36 件・教員 21 件)の対応があった。また、6名の教育相談コーディネーターを各年次に配置し、組織的な支援態勢のもと課題に迅速に対応することができた。また、医療機関や相談機関など、外部の関係機関との連携により、生徒への適切な支援を迅速に行うことができた。</p>	<p>①頭髪については、生徒支援と生徒活動のグループ及び年次団との連携のもと、体育祭や文化祭、卒業式での指導を充実させることで著しく改善が見られた。引き続き関係グループや年次と連携を図り、基準を明確にして教員間での共通認識を高め、生徒との対話の中で指導を進める。制服についても殆どの生徒が規則を遵守しているが、上衣の下に着るフード付きのパーカーなどに課題が残っている。今後も生徒にルールを周知し、職員全体で指導を進める。</p> <p>遅刻については、基本的な生活習慣が身に付いてきているが、特定の生徒は生活の乱れが改善されていない。家庭との連携を取りながら一層指導を徹底する。</p> <p>②日常の清掃活動は時間の確保が難しい面もあるが、ごみを出さない、汚さない指導の徹底や定期的な大掃除の設定等を工夫する。</p> <p>③特別な支援を必要とする生徒について、職員会議で情報を共有した。平成 28 年度からスクールソーシャルワーカーの拠点校配置があることに伴い、スクールカウンセラーと併せて、一層の教育相談・支援体制を充実させる。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活に対して前向きに取り組む生徒が多いと感じる。生徒が相互に良い刺激を与えあっている。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ここ数年で、生徒の様子が劇的に良くなってきたと思われる。服装や言動等、外部から見ても落ち着いて学校生活に取り組んでいる姿勢が伺える。現時点では、特に要望をすることは無い。 スクールカウンセラーの存在が重要であることは高校以外の教育機関でも同様である。多様な課題のある生徒や保護者への対応、また、教員に対するコンサルテーションやカウンセリングも必要である。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒への生活指導や生徒支援の取組が年を追って成果につながっている。外部からの評価が生徒の自信に繋がっている。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状に留まることなく、日常の服装指導や華美に走らない指導を一層粘り強く行う。 課題のある生徒に対する支援をさらに細やかに行う。

<p>自ら学ぶ力を高め、確かな学力を定着させる授業づくりを推進する。</p>	<p>①研究授業や授業公開を効果的にを行い、アクティブ・ラーニング(課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習)に取り組むなど授業改善を進める。 ②学習成果発表会を開催し、日常の学習活動を振り返り学習意欲を高めるとともに、生徒のプレゼンテーション能力を養う。 ③学校全体で「福祉教育」に係る取組を推進し、生徒の豊かな心を育む。</p>	<p>①研究授業や公開授業、研修会は効果的に実施できたか。 ②学習成果発表会のアンケートの結果は良好であったか。 ③「福祉教育」に学校全体で取り組むことができたか。</p>	<p>①昨年度から継続して授業力向上プロジェクトチームを中心とした、組織的な授業改善の研究を進め、教員間で情報を共有した。また、総合教育センターの協力を得て、12月と2月の2回にわたって5教科で公開研究授業を行った。研究授業に向けて、教科単位で事前研究を行うなど、個人的な取組から教科単位、学校全体への取組へと広がりを見せている。 ②9月に3年次、3月に1・2年次の学習成果発表会をした。生徒のアンケート結果では、「課題研究をすることの意味が良く分かった」「自分も先輩のように発表してみたい」等の肯定的回答が多かった。 ③社会福祉基礎の科目における取組に加えて、国語及び公民の授業においても社会福祉の視点による授業づくりを行い、公開研究授業を行った。また、社会福祉委員会の生徒による地域介護施設への訪問ボランティア等は年間4回行っており、様々な学校の取組をとおして着実に福祉教育の成果が出てきている。</p>	<p>①若手教員を中心として、相互に授業を見学し、意見交換を行ったり、教科によっては共同での教材研究や試験問題の検討を進めることが日常的な取組になりつつある。学校全体として、さらに授業改善に取り組む雰囲気醸成し、改善を図る。 ②学習成果発表会での発表についてさらに質的向上を図るため、課題研究の進め方からプレゼンテーションに至るまで、指導方法を充実させるとともに、あらゆる教科・科目の学習活動の中で、発表の場面を日常的な取組にする。 ③多くの教科・科目の学習内容に、福祉教育の視点を盛り込むよう、さらに検討を進める。また、生徒会活動、委員会活動、部活動の一層の活性化を図り、生徒の主体的な活動を支援する。</p>	<p>(保護者) ・学校が組織的に授業改善に努めていることは理解できる。 ・学習成果発表会での生徒の発表はプレゼンテーションが工夫され良かった。さらに力をつけてほしい。 (学校評議員) ・他の教育機関でも、授業改善は最も重要な課題として取り組まれている。学校全体で熱心な取組が展開されていることを評価する。 ・先進的な取組をしている学校(小・中学校を含む)の見学や教員相互の授業参観は効果がある。他校種連携での授業研究会等、対応が可能である。 ・適切なグループ学習は、学習成果の底上げに有効な手段である。</p>	<p>(学校評価) ・授業改善の取組が個人的なものから、教科単位・学校全体の取組として定着しつつある。 (改善方策等) ・国語科の文部科学省指定研究(平成28・29年度)等を契機とした授業改善を進めると共に、外部へ発信していく。</p>
<p>教育活動全てをキャリア教育の一環と捉え、主体的に学校生活や進路実現に取り組む生徒を育てる。</p>	<p>①「産業社会と人間」や課題研究等の授業を有効に活用し、キャリア意識を向上させる。 ②ガイダンスウィークや面談週間の効果的な実施やガイダンス機能を充実させ、キャリア意識を高め進路実現を図る。 ③生徒の主体的な活動を活性化させ、委員会活動や部活動などの充実を図る。</p>	<p>①キャリア意識の向上のため「産業社会と人間」等の授業展開は効果的に運営されたか。 ②キャリアガイダンス等は有効に行われ、生徒が希望する進路に進めたか。 ③委員会活動や部活動など特別活動への生徒参加は促進されたか。</p>	<p>①産業社会と人間では、社会人講話やインタビューを通して、キャリア意識を向上させた。グループ学習等を通して、コミュニケーション能力を育成した。「産業社会と人間」の授業満足度は全項目で90%超であった。卒業生を対象としたアンケートで、「総合的な学習の時間」で幅広い学習ができたことについての満足度は64.2%であった(昨年度78.0%)。 ②7月のガイダンスウィーク・9月の面談週間を中心に、生徒へのキャリアガイダンスを綿密に行った。3年次生の進路決定率は92%であった。 ③委員会活動や部活動などの活性化及び特別活動への生徒参加促進については、年度当初の呼びかけに加え、連絡掲示板の有効利用、部活動集会時における呼びかけなどを行った。部活動参加率は59.1%である。また、卒業生を対象としたアンケートで、「部活動(同好会)」で充実した活動ができたことについての満足度は60.6%であった。</p>	<p>①3年間を通じたガイダンス科目に対する満足度が前年度より低下していることをふまえ、1年次～3年次の学習の流れを再検討し、授業満足度の向上を図る。「産業社会と人間」の授業については、他の総合学科高校と連携しながら、共通テキストの作成を検討する。 ②若手教員を中心として、様々な進路選択に関する情報提供に不安があるという声がある。教員対象の研修会を一層充実させ、生徒・保護者への適切なアドバイスにつなげる。 ③部活動等への参加率は年々高まっており、競技大会や発表等で優れた成績をあげる生徒も増えてきている。部活動顧問による指導・支援を一層充実させる。</p>	<p>(保護者) ・授業の選び方や学習方法等については、先輩が後輩に影響を与えることが多い。学習成果発表会等を通して、3年生から後輩が学ぶ意義は大きい。 (学校評議員) ・先生方の進路指導や生徒への情報提供に不安を覚えることがあるならば、多校種交流等で協力し合えることがあるのではないかと。 ・授業評価を生徒や学生に公開することは授業への取組をお互いに見直す効果がある。</p>	<p>(学校評価) ・キャリア教育への満足度がやや低下している状況があり、一層の改善が必要である。 (改善方策等) ・「産業社会と人間」を一層充実させ、生徒のニーズに応える。 ・部活動への参加率・定着率のさらなる向上を図る。</p>

<p>地域との連携や交流を深め、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>①学校ホームページの迅速な更新や保護者向けメールを有効に活用し、学校情報を広く提供する。 ②地域の教育力と連携して多様な教育実践を展開し、地域に根ざした学校づくりを推進する。 ③生徒による地域でのボランティア活動や地域交流等を活発に行い、地域貢献を推進する。</p>	<p>①ホームページの迅速な更新や保護者向けのメール配信を適切に行ったか。 ②地域の教育力を活かしたか。 ③地域貢献活動やボランティア活動を学校教育に活かしたか。</p>	<p>①今年度の、HPアクセス数は年間 70,000 件を越している(昨年度 60,000 件)。学校行事等の紹介を含めて、的確に更新を行った。 ②隣の農家の協力を得て、農業科目で田植えや稲刈りを行った。また、地元農協の協力により牛堆肥の提供を受ける等、地域の教育資源を生かした授業づくりの工夫を行った。 ③地域貢献活動として、12 月に全校生徒で地域清掃を実施したほか、部活動(運動部)による自主的な地域清掃を行った。吹奏楽部や軽音楽部を中心に、地域施設や地域行事で積極的に演奏活動を行い、高く評価された。参加回数は吹奏楽部 5 回、軽音楽部 1 回であった。 生徒の地域交流スタッフが地域の方と連携して秋のコスモス栽培や「コスモスの集い(地域交流会)」を行った。また地域の小中学校への授業参観、ダブルダッチ部やダンス部による小学生への指導や、ボランティア生徒の小中学校への絵本の読み聞かせなど地域交流を推進した。</p>	<p>①広報活動を積極的に行い、学校説明会を 4 回行った結果、来場者数が延べ 1,719 人と前年度より約 14%増加した(昨年度 1505 名)。ホームページでは引き続き最新の情報を発信していく。また、「まち comi メール」等の活用をさらに充実させる。 ②学校の立地条件として農業関係の教育資源を活用しやすい環境にあることから、今後も学校設定科目や専門科目の授業で、地域の教育力の一層の活用を図る。 ③生徒による地域でのボランティア活動や福祉活動、地域交流等について、部活動や委員会の取組を含めて、積極的に推進する。 コスモス栽培、コスモスのつどいなどを通して、地域・PTA・学校の交流が年々深まった。引き続き地域交流を推進する。小中学校と様々な場面で、教員間、生徒・児童間の交流を図る。</p>	<p>(保護者) ・様々な学校の活動をHP等でさらに積極的に発信してもらおうと、学校への理解が深まる。環境整備にはPTAの委員会も積極的に取り組んでいる。 (学校評議員) ・地域にとって、学校の存在は重要である。学校内外の植木や草花の手入れされた状態は、地域の環境整備にもつながって、好ましい。老木の剪定等の後、新たな植栽等が行われることを期待する。</p>	<p>(学校評価) ・地域清掃や地域交流は一定の成果をあげているが、取組の広がりにかけている所もある。 (改善方策等) ・HPの更新頻度をさらに高めるなど、学校内外への発信や、地域と協働した学校の取組を推進するため、地域の教育資源を活用する。</p>
<p>事故・不祥事を防止し、防災体制を整え、安全で信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>①事故・不祥事防止研修を組織的・効果的に行い、信頼される学校づくりに努める。 ②災害や不測の事態に備えた防災用品の整備や防災マニュアルの点検など継続的に対応する。 ③市町と連携して防災訓練等を実施し、地域の避難施設としての役割を果たす。</p>	<p>①事故・不祥事防止研修を組織的・効果的に行い、事故等の発生を防いだか。 ②防災マニュアルの点検や防災用品の整備は進んだか。 ③地域と連携した防災訓練等は円滑に行えたか。</p>	<p>①年間9回の不祥事防止研修や日ごろの情報提供・注意喚起、点検・確認の徹底などにより事故・不祥事を未然防止に努めたが、入学者選抜試験において、採点ミスを起こしてしまった。 ②災害備蓄品・防災用品の整備を行うとともに防災マニュアルを改訂した。 ③藤沢市と水害時避難所開設マニュアルの確認を行うとともに、地域の防災担当者とともに、校内施設及び防災倉庫の確認を行う会議を行い、初期対応や受入態勢の共通理解を持つことができた。</p>	<p>①日ごろの意識啓発や研修会を積み重ねるとともに、気にかかることをそのままにしない職場の雰囲気醸成し、事故・不祥事防止に引き続き取り組む。また、特に入学者選抜試験については事故防止対策を具体的に立て、事故を起こさないシステムを構築する。 ②防災教育を通じて生徒の防災意識の高揚を図っていく。災害備蓄品・防災用品を充実させるとともに、防災マニュアルをわかりやすく改善する。 ③地域の避難施設としての役割を果たすため、引き続き市や近隣自治会と連携しながら態勢を整備する。</p>	<p>(保護者) ・防災教育や生徒の安全管理を今後もお願いしたい。 (学校評議員) ・地域の防災拠点として、災害発生時の学校の対応に期待する。 ・防災訓練等の地域との連携方法を検討してほしい。</p>	<p>(学校評価) ・不祥事防止の取組が不十分であり、入学者選抜業務におけるミスが発生した。 ・防災体制の整備を進めたが、今後さらに充実させる必要がある。 (改善方策等) ・県教育委員会の指導を受けながら、入学者選抜業務の取組を抜本的に検討し、事故のない業務体勢を構築する。 ・地域と連携した防災避難訓練等の企画・実施を検討する。</p>